



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2020年8月2日

No. 75

わたしたらの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、
わたしたらを引き離すことはできないのです。

ローマの信徒への手紙 8章39節 (部分)



礼拝献花より

御言葉に生きる

御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。

申命記 30章 14節

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『天の国の宝物』

牧師 佐藤和宏

マタイ13章44節～52節

今日のたとえから2つの点に着目したいと思います。第一に、「畑に宝が隠されている」ということです。もちろん現実には、「隠された宝」を発見することなど、極めて稀な出来事であったにちがいありません。しかし、このたとえが教えているのは、この人が偶然、隠されていた宝を発見したことが、この人の運の良さのゆえということではないのです。すべての人が耕すその畑に、その人生に宝が隠されているということなのです。しかもそれは、人の功績でも能力でも、また熱心さによるのではないのです。言うなれば、ただ与えられたものなのです。しかし、それは「隠されている」ので、誰にも見えない。誰もその存在を知らない。見えるものだけに目を向けているなら、それを知ることがない。これがたとえを通して言われていることなのです。

第二に触れたいのは、「見つけた人は、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う」ということです。畑に隠されていた宝を見つけた人は、「持ち物をすっかり売り払って畑を買う」というのですから、見いだした宝の価値の大きさをうかがい知ることができるでしょう。しかし、これは持ち物をすべて売り払って、その畑、その人生を自分のものにできないということではないでしょう。それまで人生という畑に向かい、その働き、その努力によつて得て来たもの。これによつて生きることができるとして来たこれまでの命の根拠。持ち物が意味しているのは、このことになるでしょう。しかし、畑に、人生に隠されていた宝を見いだした人は、喜びながら帰って、持ち物をすっかり売り払ったのでした。それは、持ち物と畑を等価交換したということではなく、もはや持ち物を命の根拠とすることをいっさいやめ、宝が隠されていた畑という新しい人生に生きるということなのです。命の根拠がその隠されていた宝へと移った。「すっかり売り払った」という記述は、すべてをその宝に賭けた人生を歩み

始めたことを示していると言えるでしょう。そして、これが天の国、神の支配のもとに生きるということなのです。聖書が告げる「恵み」とは、私たち人間が期待することや願うことが適うといった人間の都合を意味しているわけではありません。聖書を通して告げられる恵みとは、神が無償で私たちに与えてくださるものを意味しているのです。ですから、人間にとつて都合がいいかどうかでも、肯定的な内容であるかどうかでもないのです。また、それは祈つたら「すぐ」聞き入れられるということでもないのです。例えば、苦しみを経験する場合、一般的にそれを恵みと受け入れることは難しいでしょう。しかし、その苦しみもまた、神が何らかの目的をもって、与えられたものにちがいありませんから、信仰によつて人は苦しみさえも恵みとして受け入れることができるのです。そして何より受胎告知の場面、マリアに告げられた「恵み」とは、神が私たちに無償で与えてくださった御子イエス・キリストの方にほかならないのです。天使が告げている「恵み」とは、

マリア個人の都合ではなく、人類全体の救いにかかわる壮大な恵みについてであったのです。今日の第二の朗読でお読みいただいたローマの信徒への手紙8章に次のようにありました。「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」御子イエス・キリストという無償の賜物、恵みをくださった神が、御子とともにすべてをくださったらざるはずはないと言われています。そして、私たちはパウロとともに、次のように言うことができるのです。「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによつて示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

神の愛、これこそが、私たちの人生に隠されている宝であり、私たちはただこの愛によつて生きるのです。
(聖霊降臨後第8主日)

『コロナ君、負けないよ』

江〇〇子

2020年は東京でオリンピックが開催されるといふ喜びと期待が溢れる年の始まりでした。まだ新聞の片隅にしか、コロナに関する記事はありませんでした。

2月に入り急に日本中のあちこちから感染者が見つかる、あつと言う間に社会も私たちのなげない日常も一変しました。

約3ヶ月間、教会は閉鎖され、ネットでの礼拝になりました。今まで誰もが想像すらした事のなかった毎日を過ごす中、テレビで見る感染者の数や逼迫した医療体制を見るうちに不安を感じ、三密やソーシャルディスタンスと言う新しい言葉に困惑しました。

いつの間にか不気味なコロナウイルスに対しての恐怖や不安で頭と心はいっぱいになりました。

世界中で多くの尊い命が奪われパニックという状況の中、私は神様が見えなくなり、どんどん離れていく自分自身を感じました。時々教会の前を通っても、いつものように

招いて下さる教会ではなく、無機質な建物がそこにはポツンとありました。

巣籠と言われる日々、それまでの自分の信仰を振り返ると、もやもやした虚しさや疑問にぶつかりお祈りの言葉がでなくなりました。

6月14日の礼拝再開の前日は教会の敷居を高く感じてしまい、なかなか寝付けませんでした。当日、いつものように礼拝は始まり、式文を読み讃美歌1節を歌い、そして佐藤先生の口をおして御言葉を伺っているうちに我にかえりました。

自分の足で歩いて教会に行き、牧師と信徒の方々と礼拝を共にまもることこそ神様からの大きな恵みであり、この喜びこそ感謝しなければいけない。どんな状況にいても神様は共にいて下さり、支えて下さることを忘れて目の前のことだけに心を奪われていた自分でした。礼拝を終えての帰り道、振り返ると変わらぬ優しい色を放つ教会が目に入りました。

コロナ収束はまだまだ先のようにあり、依然として増える感染者数の毎日、私の中では世界を苦しみと悲

しみのどん底に落とし入れている憎きコロナウイルスです。しかし入山兄の愛唱聖句『私たちは知っているのです。苦難な忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望は私たちを欺くことがあります。』(ロマ・5・3〜5)を胸に刻み、新しい日常と変わりゆく社会を前向きに過ごせたらと思います。神様と共に。

いつの日にか、マスク騒動や買いだめに走った日を、笑って話せる時が来る事を信じつつ。

新型コロナウイルス感染症 対策に寄せて

松〇〇子

新型コロナウイルス、なんと恐ろしいウイルスなんでしょう！またたく間に全世界に広がり、世界中の人々をおびやかしました。緊急事態宣言が出され、マスクの着用、不要不急の外出自粛、三密を避けることなどを余儀なくされました。特に高齢者、持病のある人は危ないと言われ、不安ですが安心のいく対策をして暮らしています。

新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、教会も礼拝休止となりました。礼拝休止中は家庭用礼拝式文、礼拝説教要旨が送られてきましたので、聖書とともに読み、祈りました。

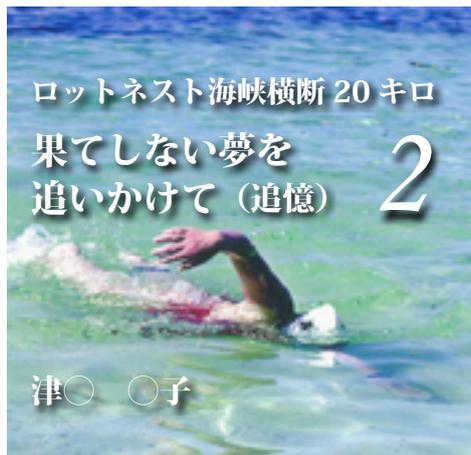
教会も稽古事もお休みです。この休みを無駄にははいけないと思いい、一日一時間歩くことを日課とし、終活も始めました。5月半ばに右肩を痛めて出来なくなり、悔しい思いです。

お休み中に〇田〇子姉、〇山〇兄が天に召されました。葬儀に出席できなかつたことが悔やまれます。心からご冥福をお祈り申し上げます。

6月14日より礼拝再開の朗報。嬉しかったですね。初日の礼拝はとても新鮮に感じました。

最近曜日の感覚が鈍ってきたので、それは自分の生活の中心が日曜日⇨教会になっているからだと思ってきました。

最後になりましたが、佐藤先生をはじめ役員の皆様には、休み中も役員会や書類の作成、発送等をしていただきましてありがとうございます。これからもよろしくお願ひいたします。



スタート地点のルールは、①泳者はスタート30分前までに登録を済ませ、両腕にナンバールを書き入れ、計測用ストラップを受け取り、足に付ける。②伴走船はスイマーのスタート時間まで待機エリアでスイマーを待つ。③13歳以上でウエットスーツは入賞の対象にならない。④スイマーはスタート地点から1000mまで、目印のブイの間を泳がなければならぬ。⑤パドラーは岸からスイマーに付き添って一緒にスタートすること(赤、黄、緑、オレンジの順に沖に向かってブイが設置してある。赤から黄色まではスイマーのみ。黄色から緑までライン外側のパドラーがスイマーと合流し、並んでよいエリア。⑥もし1500m地点になって

も伴走船に会えずにいた場合は、水上警察船のところまで泳ぐように指示される。スイマーはそこで待機。もしその間に伴走船がスイマーのところに来なかった場合は失格となり、浜へ戻らなければならない。

私はまず赤ブイ。パドラーさんはどこかな、見当たらない。第一群はどんどんパドラーと出会い、沖に出て行くが、私は取り残される。黄色いブイのパドラーさんがいないなあ。緑のブイまで探しに行くことにする。何度も首をもたげ、見渡すが、ここにもいない。ここで待っていよう。ここから先はパドラーと一緒にないと失格だから。

警備船のオレンジ色のゴムボートが飛んできて、どうしたか聞かれ、「My boat、ブルーカラー」「アームフリル、レッド、ブルー、イエロー、ホワイトカラー」「My ナンバー21」「見当たらないのかここで待っている、Go-Stop」水面を指してペラペラ話して行ってしまった。出発時に遅れて一緒だった男性とここでまた一緒になるが、彼もまだ会えないようだ。あーパドラーさん。でもこの緑のブイにいれば絶対

安心。500m先に水上警備船が横づけになっている。

さまよっていると、またオレンジの警備船がやってきて、今度はしきりに「ボートに乗れ」と言う。とんでもない。「私は泳ぎたい。日本から来た。パドラー、ブルーカラーボート、コスチューム、アームフリル、イエローレッドブルーホワイト」立ち泳ぎしながら必死にわめく。「船の名Top cat、マネージャージャー池畑、尾辻、ボス大貫、コール、テレホン」探してあげるから乗りなさい」そんな感じ。とうとう船に乗るはめに

なってしまった。エンジン付きオレンジゴムボートの淵にロープひと巻き。大きな二人の警備の人が私の腕をわしづかみ。一気に引きずり上げられたからたまらない。二の腕の内側がロープに擦っておおあざ。「えーこれ困る」ボートに私を乗せるやいなや一目散、ブイの間を右に左に。沖に出たり戻ったり。周りの泳者やボートの人達は何事かと、不思議な顔をしている。そうこうしているうちに、だいぶ明るくなり、周囲も見えるようになってきた。(続く)



今月の受洗記念日の皆さん

24日 ○田○郎兄

26日 ○田○子姉

おめでとうございます。



「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。」申命記30章14節
 徳が丘教会ウェブサイト <https://www.jkc-fujigaoka.org/>
 フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時～)